

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.43 Summer 2019

5月から6月にかけて美しい
白い花を咲かせるシライトソウ。学名は
「雪のような (chiono) 筆 (graphis)」を
意味し、なんとも趣深い花です。



シライトソウ
(*Chionographis japonica Maxim.*)

今号のトピックス

- ・海上の森散歩・・・・・・・・・・ユリを見ながら、ゆっくり森散歩—————→(2p)
- ・この人・・・・・・・・・・株式会社地域環境計画 井原 寛人 さん—————→(3p)
- ・特集 海上の森は今・・・・・・・・・・海上の森調査報告から見えてくる「今」—————→(4p)
- ・みんなのこえ・・・・・・・・・・「物見山山頂のベンチをキレイにして！」—————→(4p)

遊歩施設案内映像の公開

センター本館に併設されている遊歩施設。
その遊歩施設を紹介する映像がこのほど完成しました！ 遊歩施設のみどころや、散策中に見られるもの、生息する生き物などを紹介しており、内容は季節ごとに更新していく予定です。

この映像は展示室奥の映像コーナーにて放映しておりますので、センターにお越しの際はぜひご覧いただき、実際に遊歩施設を散策してみましよう！



海上の森散歩

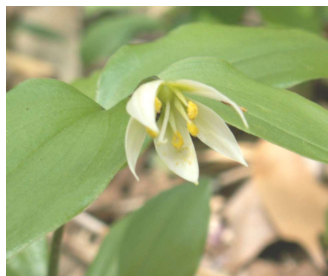
ユリを見ながら、ゆっくり森散歩

今回は、ユリの仲間たちを紹介します。海上の森では、3月の中頃から咲くショウジョウバカマをはじめ、チゴユリ、ササユリ、コオニユリなど色々なユリの仲間たちの花を9月中頃まで楽しむことができます。目安となる開花時期に森の入り口駐車スペース側から森に入っても、あいち海上の森センター側から森に入っても、それぞれのコース沿いの道端で可憐なユリの花と出会うことができますと思います。

さて、観察できる主な場所とコースは、下の図表を参考にしてください。

種名	目安の開花時期	花の色	観察できる主な場所とコース
ショウジョウバカマ	3月末～4月中	ピンク	屋戸の湿地周辺
チゴユリ	4月下旬～5月初め	白	道標③④付近
シライトソウ	5月中～6月中	白	入口駐車スペース横の市道沿い
ササユリ	5月末～6月中	淡いピンク	道標③④から③③を経て②⑩のコース
タカサゴユリ	7月～	白	道路沿い
ノギラン	8月	淡い黄色	歩道沿い
コオニユリ	8月	橙地に黒い点が入る	道標③⑤付近または道標①①①付近
ヤマジノホトトギス	9月中	白地に紫色の点が入る	道標③⑤から赤池の区間

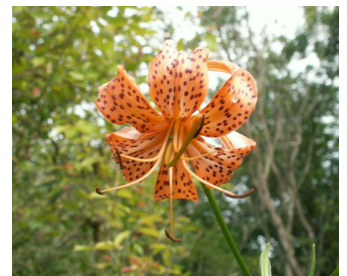
注意：花を見ても摘まないでくださいね！



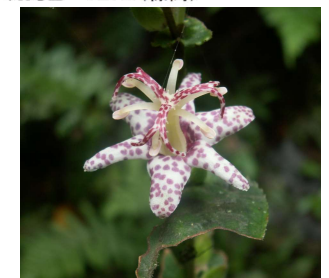
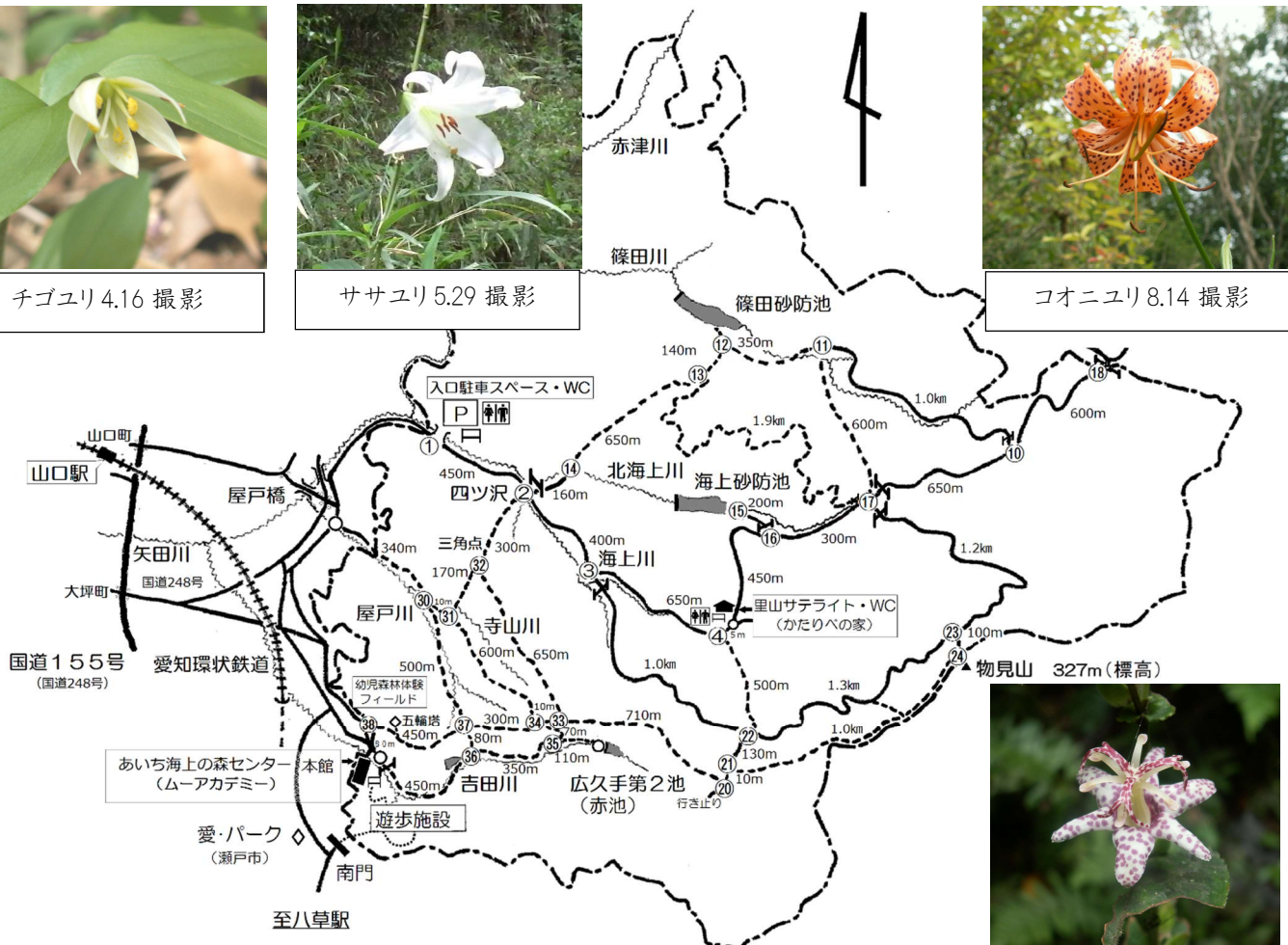
チゴユリ 4.16 撮影



ササユリ 5.29 撮影



コオニユリ 8.14 撮影



ヤマジノホトトギス 9.9 撮影

この人 ムササビ調査 夜の海上の森にて

株式会社 地域環境計画 井原 寛人 さん

昨年度「ムーアカデミー通信」の『ムー』ことムササビの調査を委託業務として実施しました。ミッションは、夜行性哺乳類ムササビの夜間の行動範囲を把握すること！

外敵に見つかりにくいなどの様々な理由で夜間に活動する夜行性動物。夜間調査としては、鳥類の鳴き声やコウモリ類の超音波を確認する調査、照明に集まる昆虫類を採集する調査、自動撮影カメラで哺乳類を撮影する調査など様々な手法があります。これらはある時間ある場所での断片を把握する手法です。野生動物の実際の動きを把握することは容易ではありません。

そこでムササビ調査ではテレメトリ調査を実施しました。電波発信機をムササビに装着し、発信電波を受信してムササビの位置を特定し行動範囲を把握しようというもの。受信器を持って、日没から日の出まで複数のスタッフと一緒にムササビを追跡しました。

夜間に林道などで数時間程度調査することはありますが、一晩中、それも道のない森の中を調査することはめったにありません。イノシシに遭遇したらどうしよう、といった不安もありましたが、幸いにも（残念ながら）出会うことはありませんでした。

電波をとおしてムササビの動きを感じながら、遠くからのフクロウの鳴き声や発信機をつけていないムササビが樹上でガサゴソと動き回る音が聞こえるなど、夜もしっかりと生きている「森」を体験する貴重な機会となりました。今回の調査ではムササビに発信機を取り付けるなど（発信機は自然に落下するよう工夫しました）、個体に負担をかけたことは間違いありません。協力してくれたムササビのためにも調査データを有効活用しなければなりません。ムササビの利用場所を改善していくなど、私たちとムササビが共存していく取り組みに繋げることが必要です。多様な生き物たちが安心して暮らしていける海上の森のためにこれからも尽力していきたいと思えます。

井原 寛人

《プロフィール》

株式会社 地域環境計画 名古屋支社長

大阪生まれ、鹿児

島、東京、福岡を経由し現在は名古屋。海上の森では動植物調査業務に携わる。海上の森は我々スタッフにとって身近で自然を楽しめる場所です。



窯の歴史館の展示を拡充！

4月から遊歩施設内にある窯の歴史館に瀬戸地域でのやきもの文化の成り立ちや陶土などに関するパネルを新設しました。窯の歴史館にて保存・展示している「広久手第30号窯跡」は、『日本遺産 (Japan Heritage)』の50番目「きっと恋する六古窯 -日本生まれ日本育ちのやきものの産地-」に登録されています。

新しく設置した展示には、瀬戸でやきものが栄えた理由の一つである蛙目粘土や木節粘土などの実物展示があります。また、窯で焼成を行うためにどれだけの薪を利用したのか計算したほか、薪1束の重さを体験していただけるような展示にしております。実際に重さを体感してみて、当時の陶業がどんなものだったのかを想像するのに役立てていただければ幸いです。海上の森にお越しの際は、ぜひ遊歩施設にもお立ち寄りください！



▲窯の歴史館の広久手第30号窯跡



▲薪の実物展示。重いです！

特集 海上の森は今

海上の森調査報告第8号から見えてくる「今」

海上の森調査報告第8号は、平成30年1月から12月までの間に観察されたムササビや猛禽類等の記録をまとめています。今回紹介する目玉は、海上の森で見つけた生物の残留物の記録です。この残留物は海上の

森に生息している生き物たちの営みの証であり、食物連鎖の世界といえます。

その主な内容は、

- ①ムササビのフン (6ページ)
- ②イノシシの記録 (48-49ページ)
- ③ムササビの落下巣箱にあった
イエネコの頭骨 (50ページ)
- ④猛禽類の狩りの痕跡 (61-62ページ)
- ⑤フクロウの営巣に関する
観察記録 (63-68ページ)

なお、本冊子は配布しております(限りあり)。ご希望の方は、あいち海上の森センター事務室までお申し出ください。

海上の森の今を示す資料として、ご覧いただくと幸いです。



みんなのこえ

「物見山山頂のベンチをキレイにして！」

あいち海上の森センターではアンケートを通じてセンターの来館者・海上の森の散策者の皆さまから多くのご意見をいただいております。平成30年度は「物見山山頂のベンチをキレイにしてほしい」という意見を2件いただきました。

今年1月25日にNPO法人海上の森の会さんと共同で、間伐材を用いて新たな木製ベンチを4脚作成しました。新設した木製ベンチには「地面との接地面に木の皮を緩衝材として挟む」という一工夫がされています。木は湿気により腐りが進行しやすくなるので、木が土と直接ふれていると水分が移動して、脚が腐りやすくなってしまいます。それを防ぐためのささやかながら非常に大切な技術です。センターはこれからも訪れて気持ちの良い海上の森の管理に努めていきますので、皆様のご意見をセンターまでお寄せください。



▲完成したベンチと作業グループの皆さん

編集後記

春から夏にかけては、ある植物が花を咲かせたと思ったら1週間後には別の花が咲いていて、森の変化が激しい季節です。しかし、それを楽しもうとすることで、心が落ち着く季節でもあります。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 2019年6月21日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード